

令和5年度第1回理事会資料

令和5年5月11日（木）11時00分～12時00分

東京都港区新橋1-18-1 航空会館5階501号室

第1号議案	令和4年度事業報告および決算に関する件	1
第2号議案	定時総会提出議案に関する件	15
	総会第1号議案	令和4年度事業報告および決算に関する件
	総会第2号議案	役員を選任に関する件
	総会第3号議案	その他
	総会報告事項	令和5年度事業計画および予算に関する件
		その他
第3号議案	参与の委嘱に関する件	17
第4号議案	新規会員の承認に関する件	18
報告事項第1号	業務執行理事の職務執行状況	19
報告事項第2号	前回理事会以降の会務報告	20

第1号議案 令和4年度事業報告および決算に関する件

令和4年度事業報告（案）

I 会務報告

1 皇室関係

- (1) 令和3年12月16日に皇嗣職宮務官長あてに発出した第61回全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式への皇嗣殿下のお成り願ひに対して、8月9日、お成り日を11月10日とする旨連絡があり、10月4日、宮内庁長官あてにご臨席依頼書を発出した。
- (2) 10月27日、賞状伝達贈呈式に先立ち、永田会長が赤坂御所東邸において皇嗣殿下に第61回全国林業経営推奨行事受賞者の経営内容についてご進講した（沢田副会長、松本常務同席）。
- (3) 11月10日、皇嗣殿下のご臨席を仰ぎ、第61回全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式を挙行了した。
- (4) 11月18日、赤坂御所東邸に永田会長、沢田副会長および松本常務が皇嗣殿下お成りへの御礼記帳に伺った。
- (5) 11月30日、赤坂御所東邸で行われた秋篠宮皇嗣殿下誕生茶会に永田会長、沢田、吉川および沖副会長並びに松本常務の5名が参加した。
- (6) 令和5年11月初旬に挙行する第62回賞状伝達贈呈式への皇嗣殿下のお成りについては、12月16日、宮務官長あてにお成り願ひを発出した。
- (7) 1月10日、赤坂御所東邸に永田会長、沢田副会長および松本常務が新春のご記帳に伺った。

2 会議の開催

- (1) 5月10日、理事・監事の都合により会場出席、オンライン出席のいずれかを選択できる折衷方式で第1回理事会を開催し、「令和3年度事業報告および決算に関する件」「定時総会提出議案に関する件」および「新規会員の承認に関する件」の3議案を審議・決定するとともに、「業務執行理事の職務執行状況」および「三会堂ビル建替中の仮住まいビルへの移転」について報告し、了承された。
- (2) 5月25日、新型コロナウイルス感染防止のため、会員に原則出席を控えて総会表決権委任状または議決権行使書の提出により表決に参加する方法で定時総会を開催したところ、会場出席38名に議決権行使書提出者275名および委任状提出者232名を加えると、同日現在の会員総数771名の過半数を占める545名の出席があり、「令和3年度事業報告および決算に関する件」「定款の変更に関する件」および「役員を選任に関する件」の3議案を審議して原

案どおり承認された。次に、「令和4年度事業計画および予算に関する件」について報告した。

なお、総会に先立ち参与会議を開催し、林業経営「創意工夫」表彰行事で優秀賞を受賞した石川県の相内正志氏から「丸太検収アプリ『ログカウンター』の開発」について、奈良県のポロ・ビーシーエス株式会社から「現場の声を反映した林業用トラックの開発」について話題提供をしていただき、意見交換を行った。

- (3) 5月25日の定時総会の第2号議案で定款第2条の事務所の所在地を港区から千代田区に変更することを承認されたが、総会時点では事務所を移転する日が定まっていなかったため、この定款の変更は事務所の主たる機能を移転させる日をもって行うこととし、理事会において当該日を定めることとされていたが、その日を12月12日とすることが決まったので、11月21日付け4山林第22号で書面決議により第2回理事会を開催し、「事務所の主たる機能を移転させる日を12月12日と定める」ことを決議した。
- (4) 3月23日、会場出席とオンライン出席の折衷方式で第3回理事会を開催し、「令和5年度事業計画および予算に関する件」「令和5年度定時総会招集等に関する件」および「令和5年度第1回理事会開催に関する件」の3議案を審議して原案どおり承認された。次に、「業務執行理事の職務執行状況」、その他「常勤役員の報酬および定年の基準」の改正、「常務役員会設置・運営規程」の制定、「会費の免除または減免に関する内規」の承認等について報告した。
- (5) このほか、8月を除く毎月、常務役員会を開催し、会務運営の重要事項について協議した。

3 会員の関係

- (1) 令和5年3月31日現在の会員数は、正会員749名、特別会員32名、計781名となっている（令和4年3月31日比で23名の減少）。

4 公益法人関係

- (1) 内閣府公益認定等委員会に対し、6月27日に令和3年度事業および決算を報告するとともに、7月25日に役員変更の届け出、1月20日に定款変更の届け出を行った。
- (2) 3月24日、内閣府公益認定等委員会に対し、令和5年度事業計画書および収支予算書を報告した。

5 事務所等の移転関係

- (1) 令和5年度から始まる三会堂ビルの建替に伴う事務所等の日土地内幸町ビルへの移転については、4月に移転先のビルとして日土地内幸町ビルが決まり、新事務所のレイアウトの設計、内装・電気工事、什器調達など移転に必要な一

切の PM (Project Management) 業務をプラス株式会社に委託した。そして、9月にはフリーアドレスの働き方を志向したレイアウトが固まって内装工事等に着手し、12月には工事が完了して10～11日に事務所を引っ越し、12日から日土地内幸町ビルで業務を開始した。

- (2) 一方、林業文献センターについては、運び込む文献の量が膨大なため、事務所の移転に遅れること2か月、2月上旬になって書架を日土地内幸町ビルに運び込むとともに、文献は一旦澁澤倉庫株式会社に預け、毎週一定量ずつ日土地内幸町ビルに運び込み、書架に配架しており、4月には文献の運び込みを完了し、6月には開館できる見込みである。

II 事業の実施

森林・林業を取り巻く諸情勢を踏まえつつ、1 普及啓発事業、2 調査研究事業、3 山林事業、4 林業文献センター事業の4つの公益事業と収益事業に取り組んだ。

1 普及啓発事業（公一1）

(1) 大日本山林会創立140周年記念事業

- ① 4月12日、当初2月15日に開催予定であったが新型コロナウイルス・オミクロン株のまん延により開催を延期していた「創立140周年記念シンポジウム」を開催した。
- ② 下記(7)の②に記述するとおり会誌『山林』に特集「平成林業逸史」を連載しており、これをとりまとめて書籍として刊行する予定である。

(2) 森林・林業に関する指導、奨励および普及

- ① 6月4日開催の「第50回全国林業後継者大会」（滋賀県多賀町）に永田会長が出席し、激励の言葉を述べた。
- ② 6月5日開催の「第72回全国植樹祭」（滋賀県甲賀市）に永田会長が出席した。
- ③ 11月12～13日開催の「第45回全国育樹祭」（大分県大分市）に沢田副会長が出席した。
- ④ 11月13～14日開催の「2022森林・林業・環境機械展示実演会」（大分県別府市）を沢田副会長と松本常務が視察し、出展企業と情報交換を行った。
- ⑤ 関係団体等の開催する会場出席やオンライン出席のシンポジウム等に幅広く参加し、情報の収集・交換に努めた。
- ⑥ 「緑の募金支援団体」としての募金協力、関係団体への活動支援などを通じ、森林・林業の奨励・普及に努めた。

(3) 森林・林業に関する講習、研修および講演会の開催

- ① 10月19～21日、前々年度、前年度と新型コロナウイルスの感染拡大防止のために取り止めとなっていた岡山県真庭・勝山地域での現地研修会を実施した。

- ② 2月15日に開催すべく準備を進めてきた「創立140周年記念シンポジウム」を4月12日に開催したことについては、(1)の①に記述したとおりである。
- ③ 東京大学の「大学院農学生命科学研究科森林科学専攻林政学研究室」および「アジア生物自然環境研究センター木材利用システム学寄付研究部門」において、永田会長が研究・教育に協力した。
- ④ 東京農業大学において「現代社会と経済」の講義を原参事が実施した。

(4) 海外への林業振興に関する技術援助

- ① 海外の法人会員等に対する会誌『山林』の送付等を通じ、海外への情報提供に努めた。
- ② 事務所の移転に伴い廃棄せざるを得なくなった本会発行書籍等計108冊を公益財団法人日本科学協会を通じて中国の12大学へ寄贈した。

(5) 森林・林業教育の振興および研究の助成

- ① 全国高等学校農業教育研究協議会をはじめとする関係団体と連携し、今後の森林・林業教育のあり方について情報交換・調査研究に努めた。
- ② 3月25～27日にオンラインで開催された「第134回日本森林学会大会」において高校生ポスター発表に協賛し、27日にオンラインで実施した表彰式で永田会長が挨拶し、最優秀賞等を受賞した高校生を始め参加した高校生を激励するとともに、同学会事務局を通じて記念品として参加24校全校へ本会発行の「日本の森林と林業—森林学習のための教本—」を1冊ずつ授与した。

(6) 森林・林業に関する発明、改良の奨励

9月1日から1月31日まで令和4年度林業経営「創意工夫」表彰行事の募集を行い、3月1日、審査委員会を開催して応募のあった3件を審査した結果、次のとおり優秀賞、奨励賞および特別賞を授与した。

なお、木の駅ひだかは、林家が持ち寄る林地残材等を地域通貨で買い取り、チップやバイオマス用材、薪等として販売することで、林家は収入が得られ、地域通貨が地域を潤す「木の駅」の原型となる特筆すべき取組であるが、現在、木の駅プロジェクトは全国に広まっており、隠れた創意工夫の取組を発掘して全国に紹介するという林業経営「創意工夫」表彰行事の趣旨にそぐわないので、優秀賞、奨励賞は授与せず、会長から特別賞を授与することとした。

優秀賞 小林 正典（大阪府）

シカを効率よく捕獲できる小林式誘引捕獲

奨励賞 都城コンテナ苗等生産部会（宮崎県）

林研グループが森林組合と協働で行うコンテナ苗生産の取組

特別賞 木の駅ひだか（高知県）

木の駅プロジェクトによる地域活性化の取組

(7) 森林・林業に関する刊行物の発行

- ① 会誌『山林』を第1655号～第1666号まで発行した。なお、8月を除き年間11回『山林』編集委員会を会場出席とオンライン出席の折衷方式で開催した。
- ② 『平成林業逸史』の刊行に向けて、前年度に引き続き、会誌『山林』に年度を通して毎月「特集 平成林業逸史」を連載するとともに、11月29日に第6回『平成林業逸史』編集委員会を開催し、第三陣以降の題材案・執筆候補者の選定等について協議した。
- ③ 第61回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事受賞者の経営内容を要約した『選ばれた林業経営』を刊行した。
- ④ 『「脱・国産材産地」時代の木材産業』『日本の森林と林業』『昭和林業逸史』をはじめとする既刊本の販売に努めた。

(8) 森林・林業功労者の表彰

- ① 第61回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事については、都道府県から推薦を受けた優良林業経営体について、2度にわたる審査委員会および大臣賞候補者については該当地域所管の森林管理局による現地審査を経て、農林水産大臣賞8点、林野庁長官賞16点の計24点を決定した。なお、11月23日に挙行された第61回農林水産祭に推薦した大臣賞8点のうち、渡邊定元氏（静岡県）が天皇杯を受賞している。
11月10日に本会総裁秋篠宮皇嗣殿下のご臨席の下、賞状伝達贈呈式を挙行した。皇嗣殿下は、記念写真の撮影後、永田会長の先導で受賞者一人ひとりに温かいお声掛けをされ、ご退場された。
- ② 12月6日、伊勢神宮崇敬会が実施する農事関係功労者顕彰行事において、本会が推薦した群馬県の市川平治参与が林業部門で表彰された。また、永田会長が出席し、来賓代表として祝辞を述べた。

2 調査研究事業（公一2）

- (1) 令和3年度林業経済研究所委託調査「森林科学教育の現状と体系の再編—森林科学の専門教育に関する実態調査から—」の報告書を関係者に配付した。
- (2) 令和4年度は、「森林認証制度が林業労働者の労働安全に与える影響の研究」に関する調査研究を林業経済研究所に委託し、報告書を作成した。

3 山林事業（公一3）

- (1) 横川部分林の管理人が碓氷川森林組合の上原又樹組合長から同組合の谷川勝紀氏に交代するため、9月30日、松本常務および前澤参事が同組合の土場に行き、前管理人への感謝状の授与および引継ぎを行うとともに、現地の林況を調査した。また、帰路、毛呂山部分林に立ち寄り、林況を調査した。

- (2) 11月16日、奥多摩所有林での東京都による枝打ち事業の申込みを奥多摩町役場へ行い、2月3日、沢田副会長、仁多見理事、原、前澤および小田の5名が枝打ちの状況を視察した。
- (3) 12月13日付け4日光管第894号で日光森林管理署長から古賀志部分林の主伐に伴う意向確認があり、2月6日、松本常務、仁多見理事および前澤の3名が部分林の成長状況を調査に行き、スギもヒノキも生長が良く、特にヒノキは枝下高が高く、通直、完満で優良材が期待できるので、令和10年度に契約した全面積の販売を希望する旨回答した。
- (4) 3月28～29日、松本常務、仁多見理事、前澤および小田の4名で前年度に計画していたが賞状伝達贈呈式が3月にずれ込んだために調査できなかった久留里部分林と大多喜所有林の概況調査を行った。久留里部分林は雨が降り出し林内に入れなかったが、大多喜所有林は林内に入りヒノキが順調に生長していることを確認した。

4 林業文献センター事業（公一4）

- (1) 7月5日、林業文献センター運営委員会を開催し、冒頭、日土地内幸町ビルでのセンター運営方法を説明した後、令和3年度の事業報告および令和4年度の事業計画を説明し、了承を得た。
- (2) 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団 東京都板橋福祉工場に委託して「増田文庫」書籍440冊および資料15袋（約500点）の電子ファイル化を行った。
- (3) 10月から旧職員の吉川比出夫氏を嘱託職員として雇用し、2人態勢で日土地内幸町ビルへの移転に向けて文献の整理、段ボール箱への箱詰め等を行うとともに、日土地内幸町ビルにおいては段ボール箱からの文献の取り出し、書架への配架を行った。
- (4) 令和5年3月31日現在、「収蔵文献・検索システム」に登録されている文献数は29,833件となっている。

5 収益事業（収一1）

基本財産を有効に活用し、収益事業を実施した。

決算報告

令和4年度 貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度末	前年度末	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	41,770	68,439	△ 26,669
振替貯蓄預金	25,733,829	22,909,977	2,823,852
普通預金	9,704,616	11,627,671	△ 1,923,055
在庫	3,532,512	10,369,245	△ 6,836,733
未払金	0	113,423	△ 113,423
未収金	395,546	416,888	△ 21,342
流動資産合計	39,408,273	45,505,643	△ 6,097,370
2 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	157,702,310	157,702,310	0
山林	187,541,369	187,541,369	0
基本財産合計	345,243,679	345,243,679	0
(2) 特定資産			
退職給付引当金	20,770,270	19,142,400	1,627,870
役員退職慰労金	3,864,000	2,856,000	1,008,000
職員退職慰労金	16,906,270	16,286,400	619,870
林業文献基金	53,163,022	53,163,022	0
公益事業基金	220,000,000	220,000,000	0
事業準備資金	19,242,142	19,242,142	0
建替準備資金	30,000,000	30,000,000	0
特定資産合計	343,175,434	341,547,564	1,627,870
(3) その他の固定資産			
造作物	2,594,127	66,451	2,527,676
構築物	93,888	98,311	△ 4,423
器具備品	4,377,397	820,176	3,557,221
敷金	6,461,100	14,404,030	△ 7,942,930
その他の固定資産合計	13,526,512	15,388,968	△ 1,862,456
固定資産合計	701,945,625	702,180,211	△ 234,586
資産合計	741,353,898	747,685,854	△ 6,331,956
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	1,513,276	1,246,594	266,682
流動負債合計	1,513,276	1,246,594	266,682
2 固定負債			
退職給付引当金	20,770,270	19,142,400	1,627,870
固定負債合計	20,770,270	19,142,400	1,627,870
負債合計	22,283,546	20,388,994	1,894,552
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	345,243,679	345,243,679	0
指定正味財産合計	345,243,679	345,243,679	0
(うち基本財産への充当額)	(345,243,679)	(345,243,679)	0
2 一般正味財産	373,826,673	382,053,181	△ 8,226,508
(うち特定資産への充当額)	(322,405,164)	(322,405,164)	0
正味財産合計	719,070,352	727,296,860	△ 8,226,508
負債及び正味財産合計	741,353,898	747,685,854	△ 6,331,956

令和4年度 正味財産増減計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
	(4/4~5/3)	(3/4~4/3)	
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	74,520,000	74,520,000	0
基本財産賃貸料	74,520,000	74,520,000	0
山林間伐収益	0	0	0
② 特定資産運用益	1,063,802	1,863,702	△ 799,900
特定資産受取利息	1,063,802	1,863,702	△ 799,900
③ 受取会費	8,167,100	8,382,500	△ 215,400
正会員会費	2,149,100	2,592,500	△ 443,400
法人会員会費	818,000	630,000	188,000
特別会員会費	5,200,000	5,160,000	40,000
④ 事業収益	2,408,602	1,770,744	637,858
会誌販売事業収入	1,596,900	1,612,943	△ 16,043
出版事業収入	251,702	157,801	93,901
講演・研修会事業収入	560,000	0	560,000
⑤ 受取補助金等	61,340,000	61,340,000	0
財団交付金	61,340,000	61,340,000	0
⑥ 雑収益	35,983,175	2,005,670	33,977,505
雑収益	35,973,175	2,005,670	33,967,505
経常収益計 (7)	183,482,679	149,882,616	33,600,063
(2) 経常費用			
役員報酬	20,160,000	20,160,000	0
給料手当	39,429,071	37,265,661	2,163,410
臨時雇賃金	0	135,300	△ 135,300
通勤手当	2,103,796	1,716,854	386,942
職員退職給付費用	1,778,870	1,564,453	214,417
役員退職慰労金	1,008,000	1,472,000	△ 464,000
福利厚生費	8,777,474	9,109,560	△ 332,086
会議費	2,982,776	1,751,779	1,230,997
旅費交通費	1,230,546	474,419	756,127
通信運搬費	5,848,144	6,277,795	△ 429,651
消耗什器備品費	54,890	1,391,676	△ 1,336,786
消耗品費	420,278	180,281	239,997
役務費	26,804,825	10,848,138	15,956,687
振込・払込手数料	915,411	347,014	568,397
印刷製本費	16,689,961	11,824,030	4,865,931
光熱水料費	462,481	227,079	235,402
貸借料	15,770,882	17,673,872	△ 1,902,990
報酬・諸謝金	10,196,497	9,373,830	822,667
租税公課	28,433,668	27,010,733	1,422,935
減価償却費	519,248	197,665	321,583
雑費	7,985,906	6,220,462	1,765,444
経常費用計 (1)	191,572,724	165,222,601	26,350,123
特定資産評価損益等	0	0	0
損益評価等計 (9)	0	0	0
当期経常増減額 (7)-(1)-(9)	△ 8,090,045	△ 15,339,985	7,249,940
2 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	△ 66,463	0	△ 66,463
当期経常外増減額	△ 66,463	0	△ 66,463
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 8,156,508	△ 15,339,985	7,183,477
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,226,508	△ 15,409,985	7,183,477
一般正味財産期首残高	382,053,181	397,463,165	△ 15,409,984
一般正味財産期末残高 (1)	373,826,673	382,053,180	△ 8,226,507
II 指定正味財産増減の部			
山林事業費振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	345,243,679	345,243,679	0
指定正味財産期末残高 (2)	345,243,679	345,243,679	0
III 正味財産期末残高 (1)+(2)	719,070,352	727,296,860	△ 8,226,508

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券…購入時の取得価格によっている。なお、取得価格と債券金額との差額について重要性が乏しいため、償却原価法は採用していない。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

定率法によっている。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金…期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高 (4/3)	当期増加額 (4/4～5/3)	当期減少額 (4/4～5/3)	当期末残高 (5/3)
基本財産				
土地	157,702,310	0	0	157,702,310
山林	187,541,369	0	0	187,541,369
小 計	345,243,679	0	0	345,243,679
特定資産				
退職給付引当資産	19,142,400	2,323,150	695,280	20,770,270
林業文献基金	53,163,022	0	0	53,163,022
公益事業基金	220,000,000	0	0	220,000,000
事業準備資金	19,242,142	0	0	19,242,142
建替準備資金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	341,547,564	2,323,150	695,280	343,175,434
合 計	686,791,243	2,323,150	695,280	688,419,113

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高 (5/3)	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
土 地	157,702,310	(157,702,310)	(0)	-
山 林	187,541,369	(187,541,369)	(0)	-
小 計	345,243,679	(345,243,679)	(0)	-
特定資産				
退職給付引当資産	20,770,270	(0)	(0)	(20,770,270)
林業文献基金	53,163,022	(0)	(53,163,022)	(0)
公益事業基金	220,000,000	(0)	(220,000,000)	(0)
事業準備資金	19,242,142	(0)	(19,242,142)	(0)
建替準備資金	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
小 計	343,175,434	(0)	(322,405,164)	(20,770,270)
合 計	688,419,113	(345,243,679)	(322,405,164)	(20,770,270)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高 (5/3)
造 作	2,653,385	59,258	2,594,127
構 築 物	510,000	416,112	93,888
器 具 備 品	8,833,876	4,456,479	4,377,397
合 計	11,997,261	4,931,849	7,065,412

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価格	時 価	評価損益
国債 159回号	119,980,605	118,390,760	-1,589,845
国債 179回号	87,987,400	82,513,600	-5,473,800
東京都債 (グリーンボンド)	10,000,000	9,984,000	-16,000
合 計	217,968,005	210,888,360	-7,079,645

附 属 明 細 書

1 基本財産及び特定財産の明細書

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表の注記に記載している。

2 引当金の明細

役員退職慰労引当金

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
役員退職慰労引当金	2,856,000	1,008,000	0	0	3,864,000

職員退職給付引当金

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
職員退職給付引当金	16,286,400	1,315,150	695,280	0	16,906,270

以上であるが、2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

財 産 目 録

(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

貸借対象表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	41,770	
	普通預金	三菱UFJ銀行虎ノ門支店	運転資金として	7,841,819	
	普通預金	みずほ銀行虎ノ門支店	運転資金として	1,862,797	
	振替貯金	ゆうちょ銀行振替口座	運転資金として	25,733,829	
				〈現金・預金計〉	35,480,215
	未収金	「山林」購読料等(54件) 「日本の森林と林業」他2件	購読料等の未納分	380,880	
			販売図書未納分	14,666	
				〈未収金計〉	395,546
在庫商品	書籍「昭和林業逸史」他35点 計 5,852冊	公2調査研究事業の在庫である。	3,532,512		
			〈在庫商品計〉	3,532,512	
流動資産合計				39,408,273	
(固定資産)					
基本財産	土地	港区赤坂1-9-13(901番2)宅地1口 1,136.67㎡	収益目的事業の用に供するものである。	17,927,167	
		港区赤坂1丁目(906番2、913番12)宅地2口 77.30㎡	収益目的事業の用に供するものである。	139,775,143	
	山林	所有林 奥多摩他4口 土地価格	公益目的事業の用に供するものである。	52,244,970	
		所有林 奥多摩他4口 立木価格	公益目的事業の用に供するものである。	79,198,753	
		部分林 毛呂山他4口 立木価格	公益目的事業の用に供するものである。	56,097,646	
				〈基本財産計〉	345,243,679
特定資産	預金等		〈退職給付引当資産〉	20,770,270	
	預金	定期預金(三菱UFJ/虎ノ門)	公益目的事業、収益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。運用益は、公益目的事業共用の財源として使用し、	7,000,000	
		定期預金(みずほ/虎ノ門)	同上	3,000,000	
		普通預金(三菱UFJ公益口/虎ノ門)	同上	10,770,270	
				〈林業文献基金〉	53,163,022
	投資有価証券	利付国債	公益目的保有財産100%。また、運用益は公益目的事業の財源として使用している。	29,991,776	
	図書	図書	公益目的保有財産100%	1,555,000	
	預金	普通預金(三菱UFJ公益口/虎ノ門)	同上	21,616,246	
				〈公益事業基金〉	220,000,000
投資有価証券	利付国債	公益目的保有財産100%。また、運用益は公益目的事業の財源として使用している。	177,976,229		
預金	普通預金(三菱UFJ公益口/虎ノ門)	同上	42,023,771		




貸借対象表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
			<事業準備資金>	19,242,142
	出 資 金	奥多摩森林組合出資金	公3山林事業の管理目的の財源として使用する財産である。	59,150
		両神森林組合出資金	公3山林事業の管理目的の財源として使用する財産である。	20,000
	預 金	普通預金 (三菱UFJ公益口/虎ノ門)	公益目的事業の業務運転準備資金である。	9,162,992
	投 資 有 価 証	利付都債 (グリーンボンド)	同上	10,000,000
			<建替準備資金>	30,000,000
	預 金	普通預金 (三菱UFJ公益口/虎ノ門)	三会堂ビル建替に伴う事務所移転等の準備資金である。	30,000,000
			<特定資産計>	343,175,434
その他の固定資産	造 作	室内改装工事等	公益目的保有財産72.6%、収益目的保有財産2.1%、管理運営目的財産25.3%である。	2,594,127
	構 築 物	記念碑	筑波山麓「全国緑化行事発祥之地」記念碑で公益目的保有財産100%	93,888
	器 具 備 品	机、椅子等	公益目的保有財産72.6%、収益目的保有財産2.1%、管理運営目的財産25.3%である。	4,377,397
	敷 金		公益目的保有財産72.6%、収益目的保有財産2.1%、管理運営目的財産25.3%である。	6,461,100
			<その他の固定資産計>	13,526,512
固定資産合計				701,945,625
資産合計				741,353,898
(流動負債)	預 り 金	役職員	源泉所得税 (報酬、給与)	151,520
		役職員	地方税 (住民税)	207,800
		役職員	社会保険料	1,078,789
		役職員他	源泉所得税 (原稿料、謝金等)	75,067
	借 受 金	預り金	会費	100
			<預り金計>	1,513,276
流動負債合計				1,513,276
(固定負債)	退 職 給 付 引 当 金	役職員	公益目的事業、収益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。	20,770,270
			<退職給付引当金計>	20,770,270
固定負債合計				20,770,270
負債合計				22,283,546
正味財産				719,070,352

監 査 報 告 書

令和 5 年 4 月 2 6 日

公益社団法人大日本山林会
会長 永田 信 殿

公益社団法人大日本山林会

監 事 田中 正 則 
監 事 茂田 和 彦 
監 事 山田 壽 夫 

私たち監事は、令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 3 1 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての点において適正に示しているものと認めます。

第2号議案 定時総会提出議案に関する件

総会第1号議案 令和4年度事業報告および決算に関する件

(第1号議案で説明し、審議済みなので説明は省略)

総会第2号議案 役員を選任に関する件

(事務局案は、次ページの<別紙>のとおり)

総会第3号議案 その他

総会報告事項 令和5年度事業計画および予算に関する件

(令和4年度第3回理事会で審議済みなので説明は省略)

その他

役員選任事務局案

(理 事)

池田 直弥	(一社)日本林業経営者協会	(留任)
井上 淳治	林業経営	(")
太田 祐子	日本大学	(")
沖 修 司	(公社)国土緑化推進機構	(")
上 河 潔	(公社)森林・自然環境技術教育研究センター	(")
吉川 重幹	吉川林産興業株式会社	(")
黒田 慶子	京都大学	(")
合原眞知子	林業経営	(")
齋 藤 正	林業経営	(")
佐藤 孝吉	東京農業大学	(")
沢田 治雄	大日本山林会	(")
鈴木 直子	(研開)森林研究・整備機構	(")
関 本 暁	住友林業株式会社	(")
田中 惣次	林業経営	(")
田中 俊彦	王子木材緑化株式会社	(")
土屋 俊幸	東京農工大学名誉教授	(")
永 田 信	大日本山林会	(")
中 山 聡	(一社)全国林業改良普及協会	(")
新島 俊哉	(一財)日本緑化センター	(")
仁多見俊夫	東京大学	(")
林 悦 子	林業経営	(")
湊上 和之	(公財)日本合板検査会	(")
松本 芳樹	大日本山林会	(")
餅田 治之	筑波大学名誉教授	(")

(監 事)

茂田 和彦	元大日本山林会	(留任)
山田 壽夫	木構造振興株式会社	(")

第3号議案

参与の委嘱に関する件

参与名簿(案)

(令和5年5月11日現在)

都道府県	職域	氏名	都道府県	職域	氏名
北海道	林	坂口 栄治郎	東京	行	新島 俊哉
	林	山口 敏男 (新任)		林	沖 修司
青森	学	田中 裕	神奈川	林	辻村 百樹 (新任)
	学	田村 早苗		林	小松 新平
岩手	林	三田 林太郎		林	鈴木 直子
	林	駒木 貴彰	新潟	林	東海林 秀禮
	林	川又 正人	山梨	学	餅田 治之
宮城	林	池田 理一郎 (退任)	長野	学	桑原 亮治
秋田	林	佐藤 清太郎		学	宮下 理人
山形	林	岸 三郎兵衛		学	加藤 英郎
福島	林	芳賀 沼伸	静岡	林	狩野 正明
茨城	学	徳川 斉正		林	鈴木 英元
	学	久保山 裕史	愛知	林	金田 憲樹
	学	田中 潔		林	鈴木 佳代子
	学	桜井 尚武	三重	林	速水 亨
	林	堀 靖人		行	吉田 正木
栃木	林	齋藤 正		行	松永 彦次
群馬	林	市川 平治	滋賀	林	宮城 定右衛門
	林	内山 右之助	京都	林	枚田 邦宏
埼玉	学	井上 淳治		学	草木 健介 (新任)
	学	仁多見 俊夫		学	神崎 護 (退任)
	学	宮林 茂幸		林	松下 幸司
	学	白石 則彦	大阪	林	清水 潤一 (新任)
	行	杉山 隆志		林	丸山 政行
	学	中山 義治 (退任)	兵庫	林	前田 多恵子
千葉	学	箕輪 光博	奈良	林	岡橋 清元
	学	古井戸 宏通	和歌山	林	榎本 長治
	行	絹川 明 (退任)	鳥取	林	前田 幸一
	林	茂田 和彦	岡山	林	山本 和正
	林	渡辺 政一		林	内田 皓夫 (退任)
東京	林	林 悦子		林	内田 雅章 (新任)
	林	能勢 秀樹	広島	林	加計 正弘
	林	田中 惣次		林	村上 裕子
	林	山崎 靖代		林	安田 孝
	学	羽生 岳史	山口	林	吉川 重幹
	学	永田 信	香川	林	東川 政富 (新任)
	学	南方 康 (退任)	徳島	林	橋本 光治
	学	佐藤 孝吉	高知	学	溝渕 真一
	学	山本 伸幸	福岡	学	吉良 今朝芳
	学	土屋 俊幸		林	佐藤 宣子
	学	関岡 東生	熊本	林	河津 宗範
	学	田中 正則		林	山田 壽夫
	学	奈須田 緑二	大分	林	合原 真知子
	学	小椽 直幸		林	田島 信太郎
	学	梶谷 辰哉	宮崎	林	赤澤 始
	学	工藤 正憲		林	黒田 仁志 (新任)
	学	松本 芳樹		林	日高 勝三郎 (新任)
	学	中山 聡		行	小松 朋代
	学	池田 直弥	沖縄	行	大田 伊久雄
	学	淵上 和之		行	

[計93名]

注：職域は、林：林業経営、学：大学・研究機関関係者、行：行政官庁OB

令和4年度(R4.04.01～R5.03.31)新規会員

会員No.	氏名(会社名)	都道府県
	(特別会員(個人))	1
F131	齋藤 正	栃木県
	(個人会員)	17
A2540	本田 孝雄	愛媛県
A2541	佐々木 徹	秋田県
A2542	則定 真利子	東京都
A2543	加藤 大河	静岡県
A2544	武藤 裕花	東京都
A2545	杉村 政彦	北海道
A2546	辻村 百樹	東京都
A2547	池知 宏一	高知県
A2548	山田 容三	京都府
A2549	大庭 哲哉	神奈川県
A2550	西浦 義道	京都府
A2551	村上 哲朗	鳥取県
A2552	倉重 加代	鹿児島県
A2553	中村 清誠	福島県
A2554	松沢 卓生	岩手県
A2555	三浦 壮一郎	秋田県
A2556	有明 達郎	秋田県
	(法人会員)	5
E252	一般社団法人バイング レース	北海道
E253	株式会社中村商会	静岡県
E254	中越パルプ工業株式会 社 資源対策本部 原材 料部	富山県
E255	一般財団法人山梨県森 林土木コンサルタント	山梨県
E256	株式会社百森	岡山県

会員No.	氏名(会社名)	都道府県
	(学生会員)	18
C2743	藤谷 直樹	神奈川県
C2744	浅輪 有策	東京都
C2745	岩崎 司	東京都
C2746	岩瀬 史弥	東京都
C2747	大坪 拓	東京都
C2748	北林 峻	東京都
C2749	寺田 美紅	東京都
C2750	中村 仁大	東京都
C2751	三上 蒼央	東京都
C2752	三宅 康介	東京都
C2753	宮崎 洸多	東京都
C2754	横館 勇作	東京都
C2755	吉田 光里	東京都
C2756	高梨 一竹	神奈川県
C2757	小竹 基弘	東京都
C2758	鈴木 仁也	栃木県
C2759	日高 将景	東京都
C2760	西内 大智	高知県
新規会員計		41

令和5年3月～5月

① 永田会長

大日本山林会の代表として、当会の業務全般にわたり会務を統括するとともに、会員の所有山林を視察して会員との交流の活性化に努めた。

② 沢田副会長

常勤役員として会長を補佐して会務を分担し、主に宮内庁対応、人事関係、機関誌『山林』ほか図書発行、研究・調査、支援・協力、山林事業および奨励会事業に係る会務を執行した。

③ 吉川副会長

常務役員会のメンバーとして会長を補佐し、会務を分担執行した。

④ 沖副会長

常務役員会のメンバーとして会長を補佐し、会務を分担執行した。

⑤ 松本常務理事

常勤役員として会長を補佐して会務を分担し、主に総務事務、勤務時間管理、予算・決算、全国林業経営推奨行事、林業文献センターおよび山林事業に係る会務を執行した。

- 3月27日：「第134回日本森林学会大会」において高校生ポスター発表に協賛し、27日にオンラインで実施した表彰式で永田会長が挨拶し、最優秀賞等を受賞した高校生を始め参加した高校生を激励した。
- 3月28～29日：28日に久留里部分林、29日に大多喜所有林の現況を松本常務、仁多見理事等で調査をした。
- 3月30日：製作を依頼するハンガーラック、傘立ての打合せを兼ねて原参事等が井上理事のきまま工房「木楽里」を訪問するとともに、同理事の所有林を視察した。
- 4月5日：青山墓地において松野礪翁顕彰会を行い、同氏と本多静六氏の墓参を行った。
- 4月6～7日：奥多摩所有林の視察を兼ねて、林理事、田中理事の所有林を視察し、情報交換を行った。
- 4月18日：令和5年度全国林業経営推奨行事に参加申込みがあった28件を対象に第1次審査委員会を実施し、農林水産大臣賞8件、林野庁長官賞16件および大日本山林会会長賞4件の候補者を選出した。
- 4月26日：令和4年度事業について監事監査を行い、事業報告が適正であり、理事の職務執行等に不正がないことおよび決算書類が適正であることについて承認を得た。